関東大震災における外国人の広域避難について

阪本真由美1*（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科）

§1. はじめに

1923 年の関東大震災により大きな被害を受けた神奈川県に，震災発生前の 1922 年時点で居住していた外国人数は 7,638 人に上る．神奈川県は，当時は日本最大の外国人居住地であった．関東大震災により被災した外国人は日本全国に避難し，その最大の避難先となったのが神戸であった．避難をきっかけにその後も引き続き神戸に居住した外国人数は多く，それにより神戸は日本最大の外国人居住地となった（表 1 参照）．

本研究では，関東大震災による外国人避難に着目し，関東大震災発生時にどのように広域避難への対応が行われたのかを文献調査等から把握する．文献については，国内の災害対応は内務省の「大正震災志」[1)]を中心に，外国人コミュニティによる対応については英字新聞 Japan Chronicle による特集 The Great Earthquake[3)]に基づき整理する．

表1　在留外国人の推移

年	神奈川	兵庫	東京	大阪	長崎	北海道	新潟
1921	7,980	5,357	3,828	1,595	1,217	401	11
1922	7,638	5,573	4,663	1,755	1,261	475	19
1923	555	7,331	3,212	2,286	1,303	482	35
1924	2,260	7,874	5,435	2,686	1,367	531	57
1925	3,742	8,197	7,418				
1926	4,208	8,973	6,865	3,172	1,467	681	73
1927	4,817	8,845	7,168	3,511	1,437	734	75
1928	5,015	8,721	7,692	3,691	1,415	837	88
1929	5,507	9,431	8,804	3,926	1,444	840	134
1930	5,842	9,791	9,121	3,813	1,460	834	176

（出所）横浜外国人社会研究会・横浜開港記念資料館編より作成 [2)]

§2. 関東大震災と外国人の広域避難

関東大震災では，地震とその後の火災により多数の人が広場や空き地に避難した．避難者数は膨大であり，東京の宮城前廣場に避難した人の数は約 30 万人，上野公園では約 50 万人とされる [1)]．さらに政府はビラ等により「帰郷地方行」を奨励し，鉄道省は，被災した人のなかで被災地を去るものについては鉄道輸送を無償で行うことを決定した [1)]．また，内務大臣は近府県地方長官宛てに避難民救護についての通牒を出した．これにより避難者は鉄道・船舶により全国に広域避難した．避難者には日本人だけでなく外国人もいた．関東大震災前後の在留外国人数を表 1 に示す．日本では，1858 年の日米修好通商条約締結後に神奈川（横浜），長崎，函館，新潟，兵庫（神戸）等が開港し，外国人居留地として外国人の居住と貿易が認められていた．居留地は，1899 年の条約改正により廃止されたが，その後も国際貿易の拠点として大きな発展を遂げた．

§3.神戸外国人コミュニティによる被災地支援

関東大震災発生の連絡を受けた神戸外国人コミュニティは，9 月 3 日午前に会議を開催し支援についての検討を行った [3)]．3 日 15 時には神戸体育館劇場において神戸外国人コミュニティによる支援に関する会合が開催された．会合には，アメリカ，ベルギー，フランス，デンマーク，ポルトガル，ドイツ等各国の領事館関係者が集まり，国を超えて被災地支援に関する協議が行われた．被災地の詳細な情報はなかったものの，支援に対する熱意は高く，集まった人の数はこれまでに行われた会合のなかで最も多かったとされる．会議において American Association の副会長の J. F. Buckley により支援概要の説明が行われ，物資・衣料品等の 16,000 円相当の物資が同日夜に出航する米船籍船の西オロワ号（West O'Rowa）で搬送された．なお，西オロワ号は横浜で支援物資を降ろし，その後避難者を乗船させ 8 日には神戸に戻っている．

§4. 外国人避難者の受け入れ対応

9 月 4 日からは東京や神奈川県からの避難者が神戸に到着し始めた．船舶により神戸港に上陸した人数は日本人が 32,892 人，外国人が 4,704 人であり，鉄道により三宮・神戸駅で降車した人数は日本人が 34,711 人，外国人は 1,395 人であった [1)]．とはいえ，ここで示されているのは日本政府が把握している数であり， 欧米船籍の船等で上陸した人の数はさらに多く，9 月 4 日～日曜日（9 日）にかけて到着した人の数は 15,000 人とされる [3)]．

避難者を支援するため，神戸外国人コミュニティは，救援本部（Relief Committee）をオリエンタル・ホテルに設置した [3)]．避難者には負傷者もいたことから，軽傷者はオリエンタル・ホテル舞踏場に，重傷者は国際病院に搬送された．膨大な避難者に支援を提供するために，救援対策本部には「医療」「財務」「兵站」「衣料/緊急衣料」「下船」「登録・住宅委員会が急遽設置された．被災者の避難先としては，オリエンタルホテルに加え，神戸体育館劇場（ロシア難民），カナディアン・アカデミー等が利用された．このように，神戸外国人コミュニティは，国を超えて自主的に連携・組織化し避難者の受入れ対応を実施していた．

参考文献

1) 内務省社会局，大正震災志, 1924 年
2) 横浜外国人社会研究会・横浜開港記念資料館編：横浜と外国人-激動の20世紀を生きた人々，日本経済評論社, 2015 年
3) Japan Chronicle, The Great Earthquake, 1923.